

研究主題

自ら考え、対話的に学ぶ児童の育成

— 国語科・説明的文章を軸とした読み解く力の向上を図る指導の工夫 —

1 単元名 読んで考えたことを話そう

教材名 「どうぶつ園のじゅうい」植田 美弥 光村図書 2年上

2 単元の目標

◎文の中における主語と述語の関係に気付くことができる。【知(1)カ】

◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。【思C(1)オ】

○共通、相違など情報と情報との関係について理解することができる。【知(2)ア】

○時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。【思C(1)ア】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文の中における主語と述語の関係に気付いている。 (1)カ ・共通、相違など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。C(1)オ ・「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。C(1)ア	・すすんで文章と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って考えたことを伝えようとしている。

4 本単元について

(1) 単元について

本単元で扱う教材文「どうぶつ園のじゅうい」は、時間的な順序を表す言葉の役割を考える活動を通して、内容の大体を捉える力を身に付け、読んで考えたことを話すことをねらいとしている。自分の考えをもつためには、自分の一日の暮らしと比べながら読むことで、自分の経験と文章の内容を結び付けて理解を深められるようにさせたい。

(2) 児童について

(令和7年度 4月実施ベネッセ学力調査意識調査より)2年生児童(%)

質問内容	はい	いいえ	その他 無回答
授業中に班やグループになって、友だちといろいろな考えを伝え合おうとしている。	80.7	17.5	1.8
自分が書いた文章や話すときの原稿を見直して、理由が書けているか、もとの文章を踏まえているか、構成がしっかりしているかなどを振り返っている。	73.7	22.8	3.5
言葉を選んだり工夫して使ったりして、きめ細やかな心の様子や情景を伝えよ	77.2	19.3	3.5

うとしている。			
同じような言葉でも細かな意味の違いがあることを、例文を作ったり文章を書き直したりして確かめている。	71.9	21.1	7.0
わからない単語や表現があれば、辞書などでしっかりと調べて使うようにしている。	57.9	33.3	8.8

(3) 教材について

「どうぶつ園のじゅうい」

初め	中	終わり
①話題提示	②～⑧獣医の一日の仕事	⑨仕事の紹介のまとめ

5 単元指導計画

	時	目標	学習活動	【 】評価
とらえよう	1	「どうぶつ園のじゅうい」を読み、気になったことを見つけることができる。	○題名から教材文への関心を高め、単元全体の流れを知る。 ○筆者の仕事で一番気になったことを伝え合う。	○学習の見通しをもち、気になったことを見つけている。【主】
	2	文章の内容を捉えて、文章の組み立てについて考えることができる。	○初め、中、終わりに分け、筆者がいつどんなことをしたか確かめる。	○文章の内容を捉えて、文章の組み立てについて考えることができる。【思・判・表】
ふかめよう	3～7	時間的な順序を考えながら、筆者の仕事についてまとめることができる。 ①朝の見回り ②動物の診察 ・いのしし ・にほんざる 本時 ・ワラビー ・ペンギン ③日誌の記入 ④入浴	○筆者が「いつ」「どんな仕事」をしているのかを読み取る。 ○「その仕事をしたわけ」「工夫したこと」を見つける。	○時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。【思・判・表】 ○文の中における主語と述語の関係に気付いている。【知・技】
	8	筆者の仕事で「毎日すること」と「この日だけにしたこと」を分類し、共通、相違など情報と情報との関係について理解することができる。	○「毎日すること」と「この日だけにしたこと」を分類し、なぜそのように考えたのか、文章の内容をもとに交流する。	○共通、相違など情報と情報との関係について理解している。【知・技】
まとめよう	9	獣医の仕事と自分の一日の暮らしを比べて考えたことを書くことができる。	○話し方の例を確認する。 ○感じたことや考えたことをノートにまとめる。	○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。【思・判・表】

ひろ げよ う	10	書いたものをもとに、考えたことを伝え合うことができる。	○友達のを考えを自分の考えと比べながら聞いたり、自分の考えたことを話したりする。	○すすんで文章と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って考えたことを伝えようとしている。【主】
---------------	----	-----------------------------	--	---

6 本時について

(1) 本時の目標

お昼前に行なった筆者の仕事について、順序を考えながらまとめることができる。

(2) 本時の展開(5 / 10)

時間	○学習活動・学習活動	◆評価規準(評価方法) ・指導上の留意点 配慮事項
導入 (5分)	○前時の学習を振り返る。	・見回りが終わるころの筆者の仕事についてまとめたことを確認する。
展開 (35分)	○本時のめあてを伝える。 お昼前の筆者の仕事をまとめよう。 ○④段落を音読する。 ○④段落の仕事はいつ、誰にどんな仕事を筆者がしたのか確認する。 ○なぜ、にほんざるに薬を飲ませるか、理由を見つける。 ○にほんざるに薬を飲ませるために工夫したことを見つけ、まとめる。 ・個人で考える。 ・ペアで確認する。 ・全体で確認する。 ①えさの中に薬を入れた ②薬を粉にして、半分に切ったバナナにはさんだ ③粉をはちみつにまぜた ○「やっと飲み込んでくれました」という文から筆者の思いを考える。	◆評価規準(評価方法) ・「その仕事をした理由」と「工夫したこと」を考えながら音読する。 ・表をもとに、確認できるようにする。「お昼前」「にほんざる」「薬を飲ませる」 ・けがをしたということを押さえる。また、飼育員さんが困っているのは理由ではなく、薬を飲んでくれないから困っているということを確認する。 ◆文の中における主語と述語の関係に気付いている。【知・技】 ・工夫したことがいくつあったか確認し、3つの工夫を1つずつまとめていく。 ◆工夫した順序を考えながら、内容の大体を捉えている。【思・判・表】 ・工夫した3つのことを動作化したりペアでやりとりしたりすることで、1つの仕事をやり

	○筆者のすごいところを考え、伝え合う。 ・薬を飲ませるために3つも工夫をされていてすごい。 ・あきらめずにほんざるへ薬を飲ませたことがすごい。	遂げる大変さが共感できるようにする。 ・主体的に伝え合うことができるように、教室内を歩き回って交流ができるようにする。
まとめ (5分)	○本時の学習を振り返る。	・振り返りの視点を提示し、自己の学びを具体的に振り返られるようにする。

7 板書計画

(中部分の構造)

朝
見回りがおわるころ
お昼前
お昼すぎ
夕方
一日のしごとのおわり
どうぶつ園を出る前

○ ひっしやのすごいところ

・ 三つのくふう

・ あきらめずにのませた

○ くすりをのませる ←

けがをしたから

○ くふう

① えさの中に入れる

② こなにしてバナナにはさむ

③ こなをはちみつにまぜる

写真

めあて
お昼前のしごとをまとめよう。
にほんざる

どうぶつ園のじゅうい

<視点>

① 構造を理解させるための手立て

・順序を意識できるような掲示・・・2時目に文章の組み立てを考えた際に、中部分の構造を時間的な順序を考えながらにまとめ、掲示しておくことで、順序を意識しながら構造を捉えていけるようにする。

② 対話的に学ぶための手立て

・ペアで伝え合い、交流・・・にほんざるに薬を飲ませるための工夫したことを確認する際に、隣同士のペアで伝え合う場を設ける。自分の意見を相手に伝えることで自信をもたせ、全体でも発言できるようにする。また、筆者のすごいと思うところを伝え合う際は、2～3人組を自由に作って交流することで、色々な他者へ自分の意見を伝えられるようにする

